

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第268回

ジョージ・サンタヤーナ

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年8月23日

編集委員：入試広報室 鈴木



## 今回の言葉

The wisest mind has something yet to learn.

一番賢いということは、まだ何か学ぶことがあるという  
心得である。

ジョージ・サンタヤーナはスペイン出身のアメリカの哲学者・詩人である。本名はホルヘ・アグスティン・ニコラス・ルイス・デ・サンタヤーナ・イ・ボラス。

## Column

この言葉を知った時にトップになることの大変さや難しさを改めて感じました。スポーツで言えばインターハイに出場することだけでも素晴らしいことなのに優勝することなんて途方もないくらいの努力が必要ですし、日本一になるためには、もはや努力や実力以外に“運”なども重要な要素になるだろうと思います。しかし、夢破れた時に「不運だったね…」と声をかけられても心が晴れることはありませんし、実力的に優勝候補筆頭と呼ばれたチームや選手が優勝を逃すことも多々あります。以前このコラムで紹介した、明石家さんまさんの“勝ち負けは『努力』の要素だけで左右されるほど甘いもんやない思うんですわ。特に超一流の世界ではね。”という言葉思い出しました。今回の言葉とは少し矛盾があるように感じるかもしれませんが、私にはそういった運などの実力や努力ではどうしようもないと思われる領域までも学び取ってみせるという強い意欲を指しているように感じています。

これまでに述べたように、たった一度であってもトップになるのは非常に大変なことです。しかし、とんでもない苦労をして手に入れた称号ですが、その瞬間から追われる立場になり、さらに難しい“勝ち続ける”ということに挑戦することになります。この挑戦が始まると、これまで以上の努力と『精度の高さ』が求められます。テストにおいてもケアレスミスはゼロに、スポーツにおいても勢いだけのプレーでは通用しません。もはや“頑張る”ということは当たり前で評価の対象にならないレベルとなり、『努力=飽くなき探究心』ということになります。

このように、気が遠くなりそうなほどの労力を必要とすることですから“諦める”という選択も頭をよぎります。一度トップになることができた人は『元チャンピオン』ということで自分を満足させることもあるでしょう。確かにそれもひとつの人生における選択です。しかし、ここで忘れてはいけないのが“時代は日々進化しながら動いている”ということです。もう一度同じ相手（テスト）に挑戦してもトップになれるとは限りません。自分を上回る存在はすぐに現れますし、今までの自分と違うスタイルも生まれます。今回の言葉には、『一番になること、一番で有り続けること』のメリットとデメリットを含めたメッセージに感じます。新しいことや自分と違うことを“面白い”と受け入れられる『柔軟性』も一番になることや成長するためには重要な要素と言えるのではないのでしょうか。最終的には勝ち負けでも順位でもなく、成長できる自分に本気で期待して挑戦を続けるという『心得』が重要です！